

「知・好・楽」

校長 吉澤 政宏

本校も開校3年目を迎えました。今年度も「やさしい子 かしこい子 たくましい子」の育成に、全教職員が一丸となって取り組んで参ります。

昨年度から小学校では新学習指導要領が全面実施になりました。「生きる力」の育成の理念を継承し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成、豊かな心と健やかな体の育成など、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成が求められております。

本校においても、授業の中でじっくり考えさせる時間の確保、自分の考えを文字や言葉でしっかりと表現させることなど、思考力・判断力、表現力の向上にむけた取り組みを推進しております。

さて、孔子はその言行録「論語」において「子、いはく、これを知るものはこれを好む者にしかず、これを好む者はこれを楽しむ者にしかず」（雍也第六）と言っております。おおよその意味は、「知っているだけの人は、好きでやっている人にはかなわない。好きでやっている人は、楽しんでやっている人にはかなわない。」です。学びのプロセスをこうも明快に説いている、その偉大さを改めて感じずにはられません。

これを学校の教育に当てはめてみると、新しい知識を子どもたちに植え付ける。子どもたちは、新しいことを知識としてたくさん覚えるが、その知識もそれは勉強が好きになった人にはかなわない。勉強が好きになった人も、勉強が楽しくなった人にはかなわない、となるのかと思います。

つまり、私たち教師は「わかる授業」の展開を常に心がけ、子どもたちに「わかる喜び」を数多く味わわせることによって、子どもたちは勉強が好きになっていく。この段階になればあと一歩。さらに「わかる喜び」を積み重ねることによって、勉強が楽しくなる。ここまで高められれば究極です。それには教えるプロとして、日々の研鑽を通じて指導力の向上を図ることによってのみ成しうるものと思います。

「知・好・楽」。およそ2,500年前の孔子の言葉。その言わんとするところはまさに不易。月の輪小学校は、「学び」を通して「勉強が好きになる」、「勉強が楽しくなる」子どもの育成ををめざして全教職員が力を合わせ、日々教育活動に取り組んでおります。